

目的：実践的なロールプレイを通して、これまで学んだ基本的な技法を統合する。

内容：三人一組のロールプレイを実施するが、この三回はいわゆる役割演技を行なう。1回目は、友愛訪問ボランティアとやや妄想的な独居老人、2回目はやはり友愛訪問ボランティアと阪神大震災後の仮設住宅に住む女性、3回目はホームヘルパーと糖尿病を患う老女という設定で、しっかり役づくりも行なった上で約30分間のロールプレイを実施。ロールプレイ後は、グループごとにフィードバック、そのあと全体で各グループがそれぞれどのような展開になったかを見比べつつコメントを出し合う。

19タイトル：CL13／まとめとふりかえり

目的：13回のコミュニケーションラボを通じて学んだことを整理しまとめる。

内容：効果測定用のロールプレイテープを録画し、3回目に録画したものと見比べ、またコミュニケーションラボの過程全体をふりかえって、受講者が学んだことをお互いにわかちあう。

*中級コースは、上記のコミュニケーションラボを使用した時間以外に、2回の全体講義（11回目と20回目）、5回のグループ体験（10回目と12回目にディベート、21回目～23回目で課題整理のためのワークショップ）および開講式と閉講式の24回で成り立っているが、詳細については、コミュニケーションラボを利用した時間のみ記している。

R & D of an Interpersonal Helping Skill Training Program

ABSTRACT

The purpose of this paper is to report on the curriculum and experimental effects of an interpersonal helping skill training program using the communication lab system. The author has been involved in developing and practicing the program, "Human service course, intermediate class" at Kobe city social work council citizens' welfare community college since 1994. This program is based on experiential learning theory with the aim of helping participants learn basic communication skills to become good listeners.

Analysis of covariance on the basic attending behaviors of 23 subjects (13 experimental and 10 control) in the experiment showed that the program provided a significant training effect.

Key words: experiential learning, interpersonal skill training, communication lab system